

「な、なんだ？」
と、天狗どのが、びつくりしている、誰かが、「だめだなあ」と、いいました。
下のほうをみると、小さな男の子が、いっしょうけんばいシャボン玉を

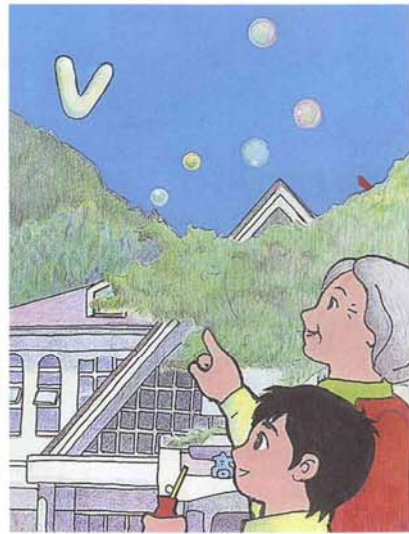
暖かい日が続いています。高尾山には、今日もたくさんの方が登っています。
山登りの人、お参りに登ってくる人、親子連れの人もあります。
天狗どのは、高い杉の木の上から、事故が無いようにと監視をしています。が、うつらうつらしてしまいました。
「こ、これはいかにぞ」
天狗どのが、目をしょぼしょぼさせていると、目の前に、丸い物が浮かんできて、パチンとはじけました。
「な、なんだ？」
と、天狗どのが、びつくりしている、誰かが、「だめだなあ」と、いいました。

おはなし散歩道
シャボン玉の手紙

柏市 木村 研

吹いています。
「おお、あの子は」
天狗どのは、思い出し、去年まで、おじいさんといっしょに、お参りに登ってきた男の子です。
男の子は、お参りが終わると、おじいさんといっしょに、見晴らしいのい展望台でシャボン玉を飛ばしていました。
ところが、おじいさんが入院することになって、それから二人の姿をみることは無くなりましたが、たしかに、あの男の子です。
男の子は、
「こんどこそ、おじいちゃんのところまで飛んでいけ」
と、何度もなんどもシャボン玉を飛ばしています。
それなのにシャボン玉は、天狗どりのそばまで

飛んでくると、パチンとはじけてしまいます。
「おしいなあ。あの杉の木をこえたら、じいちゃんのところまで飛んでいくのに」
男の子は、くやしそうにいいました。
すると、となりで、いっしょに空をみあげていたおばあさんが、
「あんな高い木をこえるなんて無理だよ。そんなことしなくても、じいちゃんには、春くんが一年生になったこと、ちゃーんとわかっているよ」と、いいました。
「だめだよ。やくそくしたんだから」
「やくそく？」
「うん。シャボン玉は、天国まで飛んで行くんだって。だから、天国までシャボン玉の手紙がとどくんだって。だから、お見舞いに行ったときに、へいちゃん死んだら、おぼく、シャボン玉の手紙をおくる」って、やくそくしたんだ」
「まあ」



おばあさんは、目を丸くしていましたが、男の子は、
「どうしても、あの杉の木をこえなくちゃいけないんだ」
と、何度もなんどもシャボン玉を吹きつけます。
「しょうがないなあ」
しかたがありません。
天狗どのは、裳を着て姿を消すと、空に浮かんで、両手でシャボン玉をかかえて、高く高く飛んで行きました。
男の子には、天狗どりの姿はみえませんが、シャボン玉が青い空に吸い込まれるように消えていくように見えます。
「やった。杉の木を超えたぞ。じいちゃんの所まで飛んでいけ」
男の子とおばあさんが、お参りをすませて帰ってくる、高尾山の上に、ブイの字のような形の白い雲が、浮かんでいました。
「あつ。じいちゃんのブイサインだ」
「本当は、シャボンがとどいたんだね」
おばあさんも、うれしそうにいいました。
(おわり)
(さし絵・小出 茂)

高尾山来山者安全祈願祭
四月八日(土)



登山者の安全を祈願し参道を練り歩く

四月八日(土)、高尾山若葉まつり開催式が行われました。五月二十八日(日)まで、土・日・祝日を中心に様々な催し事が行われます。
山伏を先頭に山麓の不動院まで、伊勢丹立川支店の皆様や、高尾山商店街の関係者が満開となった桜の下を練り歩き、飯縄権現遥拝社御室前にて、菅谷執事長御導師のもと、来山者安全祈願祭が執り行われました。

花まつり(釈尊降誕会)
四月二日(日) 八日(土)

四月二日と八日に、お釈迦様の生誕を祝福する「花まつり」が行われました。
高尾山の有喜苑には、タイ国王より日本ボーイスカウト連盟が拝受した、お釈迦様の真身骨が安置されている仏舎利塔があります。その御縁から、毎年四月第一日曜日にはボーイスカウトによる花まつりが行われており、本年は二日に行われました。
お釈迦様の誕生日とされる八日には、山内僧侶により法要が厳修され、花で飾られた「花御堂」の中に立つお釈迦様の誕生仏に甘茶が灌がれました。



花御堂の誕生仏に甘茶が灌がれる

三代句碑法楽会
四月十八日(火)

四月十八日、俳人の星野椿先生と御子息の高士先生(俳誌『玉藻』主宰)が来山され、境内の天狗像脇にて「三代句碑法楽会」が執り行われました。この場所には、椿先生の母である星野立子様と椿先生、高士先生の親子に三代に渡り、
春風にのり 大天狗 小天狗 立子
春風や 森羅万象 瑞々し 椿
富士道といふ 古道にも風光る 高士
という俳句が刻まれた句碑がそれぞれ建立されたいです。



親子三代の句碑を背に記念撮影する星野椿先生(写真左)と高士先生(写真右)